



2015年  
10月号

発行所  
神戸教区事務所  
TEL 078(351)5469  
FAX 078(382)1095  
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者  
司祭 芳我秀一

印刷所  
文明堂印刷所

## 広島平和礼拝との10年

司祭 オーガスチン 小林 尚明

今年も多くの参加者を得て、広島平和礼拝が終わりました。日本聖公会の全ての現職の主教、韓国から金根祥首座主教もお迎えすることが出来ました。ご奉仕くださった皆様に感謝しています。この10年を振り返って何か書くように広報部から依頼されましたので、思いつくまま書いてみたいと思います。

### \*事の起り

2004年の6月に行われた沖繩研修に参加しました。聖公会神学院の同級生上原榮正司祭(現主教)から「小林先生も大変なことですね。平和のことをするのに何も沖繩まで来なくても、広島ですることがあるんじゃないですか」と指摘されま

した。今から思えば、その一言が、広島平和礼拝の「種」でした。広島に帰り、教区と相談して、次の年が広島被爆60年でしたから、一年かけて準備することになりました。自分の学びとして、YWCAの碑めぐりサークルに入れていただき、一年かけて広島に点在する原爆の遺産や関係場所を学んでいきました。その学びの中で、以後10年指導して下さることになる、原爆資料館のピースボランティア今田洋子先生と知り合いました。そして、先生に平和公園は勿論、御幸橋コース、大本営コースの研修をしていただき、述べ40名近い聖公会のメンバーが研修を受けることになりました。その中から今年10名が3コースのガイドと

して奉仕してくださいました。

### \*発展

被爆60年の礼拝は、半日のプログラムでしたが、220名の参加がありました。翌年2006年11月に南アフリカのデズモンド・ツツ大主教様が広島に来



スエンソン監督(メソジスト)と通訳の中村主教

られることになり、チベットの僧侶の方もお招きして、「平和の祈り」というプログラムを開催することになりました。会場

を探しましたが、カトリックの世界平和記念聖堂がいいのではないかといいことになり、お話を持っていくと肥塚倅司神父が対応くださり、素晴らしい会が出来ました。その準備段階から、「8月の平和行事を一緒にしませんか。」というお話があり、平和公園の供養塔の前での「祈りの集い」、「平和行進」、世界平和記念聖堂での「祈願ミサ」にも招待されることになりました。そして、肥塚神父との出会いが、フランスのルルドへのカトリック・聖公会合同巡礼や復活教会の東隣、上職町公園でのホームレスの人たちへの炊き出しへと発展して、炊き出しも今年の8月で丸6年になりました。平和を求めて行なっている行動が、神の国の実現に導かれているように感じています。

### \*広島平和礼拝の目的

1. 原爆犠牲者を追悼し、世界平和のために祈る。
2. 原爆の悲惨さ、戦争の愚かさを次世代を担う人たちに伝える。
3. 「主の平和」を学び、その実現のために活動する。

と定めて活動してきました。2007年からは、各教区から聖職1名、信徒1名の派遣を要請し、広島での滞在費をこちらで

負担しています。この要請が遠距離の参加を容易にしていると思います。また年々、参加する生徒や学生が増える中、匿名で多額の献金をくださった方があり、その生徒や学生に一人1万円補助も提供しています。

### \*WCC来会

今年の平和礼拝と同時期に、WCC(世界教会協議会)の巡礼団17名が広島に来られました。管区渉外主事のポール・トルハースト司祭のお計らいでした。5日のカトリックと聖公会の合同プログラム「平和のための祈りの集い」で、巡礼団の団長メアリー・スエンソン監督が平和メッセージをしてくださりました。一番いいところをWCCに持つていかれた、という見方もありますが、神様がWCCを遣わしてくださって、カトリックと聖公会の絆を祝福してくださいました。

今年の平和礼拝の参加者は220名を超えていました。最初に蒔かれた「種」が祝福されて、30倍、60倍、220倍になった、ということでしょうか。すべてを導かれた神様に感謝しています。

(広島復活教会牧師、  
浜田基督教教会管理牧師)

# 広島平和礼拝2015

司祭ミカエル 小南 晃



広島原爆逝去者記念聖餐式

山下さんは、広島女学院における平和教育などの紹介をされ、その学びから自分たちの世代が原爆の悲劇を語り継ぐ決意を強くしていると語られました。

また今回、この礼拝に参加した聖公会関係学校生徒たちが、広島女学院が取り組んでいる「核廃絶のための署名活動」を共に行ったことは特筆すべきことかと思えます。

その後、広島平和公園にてカトリックと合同の「祈りの集い」と平和行進。午後7時からの世界平和記念聖堂での「平和のための祈りの集い」では、WCC副議長による説教、ラマ教僧侶の方々の声明など、宗派を超えて平和を祈りました。

翌6日(木)午前8時から広島復活教会にて、日本聖公会全教区主教及び大韓聖公会の金根祥首座主教のご臨席のもと、中村教区主教司式、武藤謙一九州教区主教の説教により広島原爆逝去者記念聖餐式が行なわれ、原爆犠牲者追悼と平和のために共に祈りました。

被爆70年の節目の年にこのように広島平和礼拝を守ることができたことを感謝したいと思います。

(広島平和礼拝実行委員)

# 「大地震後のネパールを訪ねて」

マリア 山本アサ子

これまでNHCCN(Nature and Human Communication Network: 国際ボランティア団体)ではアジアで活動する方々との交わりを通して、中古救急車寄贈、貧困層支援、子どもたちへの就学・生活支援を行ってきました。

そして4月、その支援先の一つであるネパールに大地震が発生しました。

前々回の「鳩だより」でご紹介させていただいたように、カトリックの川岡俊子シスターと連絡を取り合い、緊急支援の準備を開始しました。川岡シスターとカトリック関係者は地震直後に現地へ赴き緊急物資を届け、私は教会と地域、また新聞

社などに働きかけ、お陰さまで1万ドルという義援金を携えて、7月5日、ネパールへ出発することができました。

到着後、川岡シスターと合流し、震源地のゴルカ郡ソウラバニへ向けその後の実態調査に出發。しかし、震災と雨期で道が寸断され、目的地までたどり着けず、麓のドレニ村で聞き取りを行いました。

7月20日、ネパール第二の都市ポカラにあるカトリック施設で今後の支援方法などについて会合が行われました。義援金の送り先であるイエズス会、ピーター神父(カトリックの支援活動責任者)、ソウラバニから危険な道のりを下つて来られた上級学校校長バネル先生から現地の詳しい状況を聞くことができました。ソウラバニは山岳地帯で支援が届かないこと。被災住宅等の建設は雨期で政



府が建築を制限し、今もテント暮らしであること。学校は倒壊し空き地にテントを張って授業を行っていること。食糧、生活必需品、子ども達の文具が不足していることが分かりました。

この国の震災対応は地域によって大きな格差があります。支援の届かない人々に笑顔がもどることが私たちの祈りであり、務めであると思っております。どうか皆様の温かいご支援をお願いいたします。

(徳山聖マリア教会信徒・NHCCN事務局長)

NHCCNネパール震災支援募金  
口座：ゆうちょ銀行  
15580-21131851  
名義人：NHCCN山本アサ子



ドレニ村、手作業での復旧は進まない

# 中高生みんなで探した宝物

ラファエル 藤井 漱之介

「第52回中高生大会の大会長は藤井漱之介君です！」ここから今年の中高生大会が始まりました。最初は、大会長の大変さを分かってはいるつもりでしたが、実際にしてみると今までの大会長がどれだけ大変だったかを感じ知らされました。

今大会のテーマは「宝探し」でした。僕自身この中高生大会で多くのものを得てきました。なので、初参加の中高生のみならず、今まで何度も中高生大会に参加してくれているみんなに一つでも多く、自分なりの「宝」を見つけてほしいという思いから、今回のテーマを決めました。それにあたり、敬和学園高等学校宗教主任の野間光顕先生を講師としてお迎えしました。野間先生自身も20年前中高生大会に参加していたOBというところもあり、中高生の目線で話していただきました。今回のテーマである「宝探し」について、自分が中高生大会に来るまでの経緯や中高生大会で受けた刺激や得た宝物、大人気漫画「ONE PIECE」を題材

としたお話など、中高生が理解しやすいお話をしていただきました。特に自分が一番印象に残っているのは、野間先生が、嫌々来た中高生大会で自分の人生が変わって今キリスト教関係の仕事をしているという話です。この中高生大会が自分の人生のターニングポイントといえるような出来事になるといふこととに、衝撃を受けました。その他多くの中高生からも「聞きやすくて面白かった」「とてもいい話だった」などの多くの声を聴きました。そして今年には48名の中高生が来てくれました。特に横浜教区の中高生や松蔭中学生、今大会が初参加の中高生など、多くの中高生が集まってくれました。大会長としては多くの中高生のつながりができることはなによりもうれしいことです。また来年も、多くの中高生が集まれることを願っています。

最後に今年には本部の中高生が僕を含めて2名でした。第52回中高生大会は決して本部の2名で作れるものではありませんでした。チャプレンをはじめ、役員の中高生、家族、教会の方々、そして毎回温かくおいしいご飯を作っていた2人のシェフ、『忘れられない最後の夜』を作ってくくださった教役者の方々、その他多くの方の支えがあったからこそ成功したものです。本当にありがとうございます。この第52回中高生大会をみんなで作れたこと、新たな中高生とのつながり、仲間との思い出、自分自身多くの宝物を見つけることができました。やっぱり僕は中高生大会が大好きです！この中高生大会がいつまでも続くことを願っています。ぜひ来年も中高生大会に来てください！

(神戸聖ヨハネ教会信徒)



# 青年交流会

8月4日(火)～6日(木)、青年交流会が行われました。戦後70年という時が経過したことを心に留めるため、広島平和礼拝に参加し、実際に広島に立つて、平和について考えました。

## 広島に立つて、感じたこと

サムエル 芳我 顕司

主の平和を祈ります。8月5日、暑い陽射しの中、私は原爆ドームの前にいました。1986年、明治維新の果てに新たな世が始まり、日本は文明開化を迎えます。しかし誰一人、この近代化の果てを見通すことは出来なかつたでしょう。実に、明治新政府誕生から原子爆弾投下まで77年しか経っていません。原爆ドームを前にして、人類が作り出した歴史を私は実感しました。歴史は進歩するだけでなく、時に退化もするのです。イデオロギーや正義が絡むと、人は容易に悲惨な行為を展開します。原子爆弾投下や大量虐殺、

そして肅清、平凡な人間が起こし得る、妄動という全体主義の危険性がそこには存在します。凡人が作り出した20世紀という時代から、私は学びます。戦後70年、我々は一つの節目に立っています。ですが、古今東西いつの時代も、人には未来が見えません。そして、先の見えない不安にあっても、時は流れ、人は立ち止まることを許されないので。今、自分がしている判断・行いが正しいのかどうか、それは時を経て歴史が証しします。今を生きる人間に出来ることは、今を賢明に生きることです。我々は歴史から学ばねばならないため、悲惨な歴史を繰り返さないため、自らを、そして歴史を省みる必要があります。私はその機能を祈りの中に見出します。内省としての祈りの大切さ、それを今回の青年交流会、広島平和礼拝を通して再認識しました。誠実に祈りを捧げ、自分自身、そして歴史と対話をし、時勢に対して客観的な視点を持つこと、これが時代を超えてキリスト者に必要な自律的態度だと、私は感じます。

(姫路顕栄教会信徒)



大会実行委員

聖公会保育連盟  
全国保育者大会

7月29日(水)～31日(金)、神戸ポートピアホテルを会場に第59回全国保育者大会が開催されました。

毎夏、全国の聖公会の幼稚園・保育園で働く保育者が一同に会し、学びと親睦を深める集いです。各教区が持ち回りで担当しますが、今年は神戸教区と大阪教区の担当でした。実行委員長は福永君二兄(良善幼稚園・園長)を中心に、実行委員、教区内の幼稚園・保育園関係者が準備・運営を担いました。参加者一人ひとりが講演や分科会を通して、キリスト教保育の原点に立ち返り、子ども達や保護者とのかわりを振り返る機会となりました。(杉野 記)

鳩だより 《敬称略》

祝 洗 礼

8月23日(日)  
ヨシヤ 吉谷 啓次  
岡山聖オーガスチン教会

祝 堅 信

7月5日(日)  
モニカ 石橋 カズ子  
フンチエス 片岡 則子  
パウロ 本間 淳  
高知聖パウロ教会

7月19日(日)

マリア 益田 夏花

明石聖マリア・マグダレン教会

8月2日(日)

マリア 安 信 恵 美  
ハンナ 柳 原 康 子  
倉敷聖クリストファー教会

祝 聖 婚

8月8日(土)  
アグネス 寺本 美奈子  
前田 哲志  
呉信愛教会

ご 逝 去

7月21日(火)  
ハンナ 國 弘 幸子  
神戸聖ペテロ教会

7月27日(月)  
アンデレ 宇山 光義  
神戸聖ミカエル教会

8月22日(土)

ベティのママ 佐藤 タマエ  
徳島インマヌエル教会

8月23日(日)

ヨシヤ 吉谷 啓次  
岡山聖オーガスチン教会

教 籍 移 動

7月9日(木)  
クリスティーナ 八代 優  
神戸聖ミカエル教会より  
川口基督教会へ

7月11日(土)

セシリア 若林 知  
横浜聖アンデレ教会より  
神戸聖ミカエル教会へ

8月4日(火)

ソフィア 上野 光  
神戸聖ミカエル教会より  
横浜聖アンデレ教会へ

徳島伝道区

◎徳島聖テモテ教会

7月25日(土)、「教会で楽しむ大人のワイン会」が行われた。世界中のワイン(ミサワイン)と持ち寄りフードで歓談し、礼拝堂で三木姉のリードで賛美をするといった初めての試みで、盛況。年内に、第2弾を予定している。詳しくは、当教会のホームページをご覧ください。

山陰伝道区

◎米子聖ニコラス教会

8月7日(金)～8日(土)、大山にある松蔭ロッジにて米子聖ニコラス教会の子どもの教会学校のキャンプが行われた。初日は、流しそうめんと手巻き寿司を食べ、夜はキャンドルサービスや花火、肝試し、夜の虫探し。翌日は礼拝後、川遊びで楽しみ、自分たちでぎったおにぎりや川で冷やしたスイカを食べ、大山の自然を堪能したキャンプとなった。

広島伝道区

◎日曜学校キャンプ

7月27日(月)～28日(火)広島伝道区合同日曜学校夏キャンプが、下関折りの家で行われた。初日は対岸の門司まで足をのばして鉄道科学館の見学や関門海峡をクルージング。夜はプロジェクターでモーセの十戒を鑑賞した。翌日は海響館(水族館)で夏休みの宿題準備を行った。子ども26名、保護者とスタッフ15名が参加した。

◎リフレッシュメント・キャンプ

8月13日(木)～14日(金)広島伝道区リフレッシュメントキャンプが下関折りの家で行われ、伝道区内の聖職・信徒16名が集まった。このキャンプは伝道区のデイスカッションキャンプで、初日は開会礼拝の後、バブルシエアリングを行い、それぞれ教会や伝道区のあり方や課題について話し合った。夜は場所を唐戸に移して関門海峡花火大会を信徒宅の屋上より観覧した。翌日朝には聖餐式に与り、最後のデイスカッションで伝道区への提案をまとめて解散した。

11月の教区関係教役者  
逝去記念聖餐式

日時 2015年11月5日(木) 午前10:30  
場所 神戸聖ミカエル大聖堂  
司式 主教 中村 豊  
説教 司祭 河村 博之

\*11月の記念逝去教役者\*

1日	司祭	レイモンド	クリストファー	太吉
3日	司祭	パウロ	山本 久	山本 久
4日	司祭	ヴァイオレット	ハ イ	ド
8日	宣教師	アンデレ	玉 正	世
9日	司祭	モーセ	木内 茂	歌
13日	司祭	ルデヤ	ハ ン	コ
17日	伝道師	ウイリアム	末 吉	信
17日	司祭	チッポラ	秋 田	哲
18日	伝道師	ヨハネ	塩 原	三
19日	司祭	パウロ	マ ッ	満
20日	司祭	ジャネット	ポ サ	一
22日	伝道師	エイミ	ケ ッ	ケ
28日	宣教師			
30日	宣教師			

逝去年月日不明の方々もお祈りします。